2019年３月期 第３四半期

決算補足説明資料

2019年２月７日

anicom®
アニコム ホールディングス株式会社

証券コード：8715

１．連結経常収益・経常利益・修正利益の推移

■ 経常収益　：26,261 百万円　（前年同期は　23,814 百万円　**10.3% 増**）

（うち、保険引受収益：25,321 百万円　前年同期は　23,074 百万円　9.7％ 増）

■ 経常利益　：　1,833 百万円　（前年同期は　1,281 百万円　**43.0% 増**）

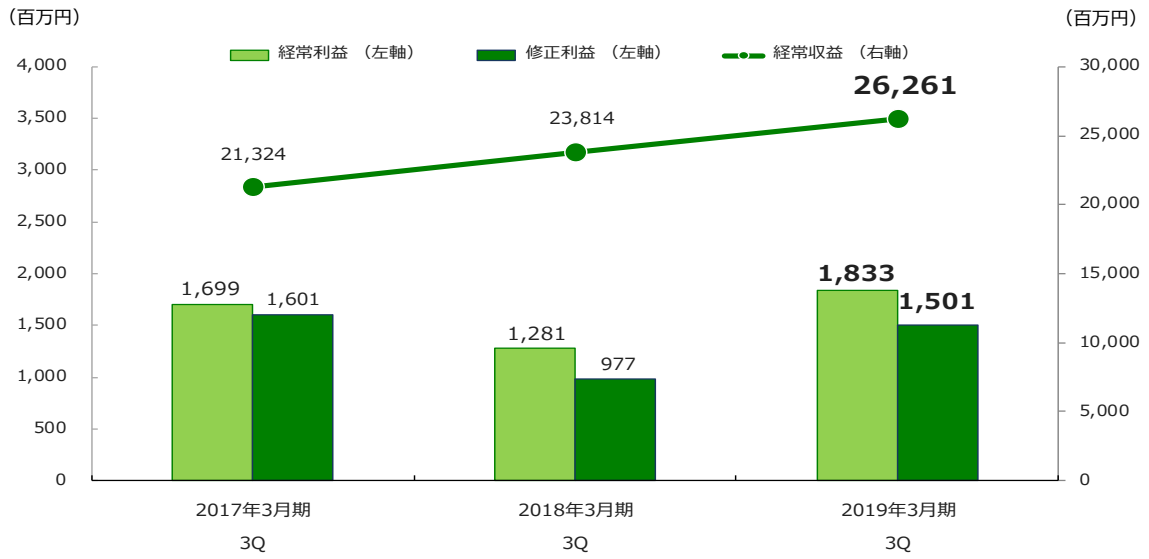
・新規取組み強化と安定した継続率により、**保有契約数は順調に増加**（前年同期比8.7%増）。

また、保険引受収益も**順調に増加**（2019年3月期9.7%増）。

・アニコム損保単体の損害率・事業費率の改善により、**ペット保険事業の実質的な損益を表す修正利益（注）は大幅に増加。**

・病院運営を含むその他経常収益も順調に拡大しており、その結果、**グループ連結の経常利益は大幅な増益で着地。**

（注）修正利益　：経常利益から異常危険準備金、資産運用収支、その他経常収支等の影響を除外した利益であり、“ペット保険事業の実質的な損益”を表す当社グループ独自の指標。



Anicom Holdings, Inc. All Rights Reserved

２．2019年３月期　連結決算概況

（百万円）

	18年３月期 3Q	19年３月期 3Q	対前期 増減率
経常収益	23,814	**26,261**	10.3 %
保険引受収益	23,074	**25,321**	9.7 %
資産運用収益	287	**271**	△ 5.8 %
その他経常収益	451	**669**	48.2 %
経常費用	22,532	**24,428**	8.4 %
保険引受費用	16,058	**17,496**	9.0 %
（正味支払保険金）	(12,403)	**(13,789)**	11.2 %
（損害調査費）	(756)	**(761)**	0.7 %
（諸手数料及び集金費）	(1,939)	**(2,254)**	16.2 %
（支払備金繰入額）	(222)	**(231)**	3.9 %
（責任準備金繰入額）	(736)	**(459)**	△ 37.6 %
（うち未経過保険料）	(844)	**(650)**	△ 23.0 %
（うち異常危険準備金）	(△107)	**(△190)**	△ 76.4 %
資産運用費用	0	**3**	987.9 %
営業費及び一般管理費	6,341	**6,654**	4.9 %
その他経常費用	131	**273**	108.7 %
経常利益	1,281	**1,833**	43.0 %
純利益	914	**1,291**	41.3 %

既経過保険料		22,230	**24,671**	11.0 %
発生保険金（損害調査費含む）		13,382	**14,782**	10.5 %
E/I 損害率	①	60.2 %	**59.9 %**	△ 0.3 pt
既経過保険料ﾍﾞｰｽ事業費率	②	35.4 %	**34.0 %**	△ 1.4 pt
ｺﾝﾊﾞｲﾝﾄﾞ・ﾚｼｵ(既経過保険料ﾍﾞｰｽ)	①＋②	95.6 %	**93.9 %**	△ 1.7 pt

主な勘定科目の内容と増減理由

① 保険引受収益　（詳細は「4.経常収益のパラメータ」(P6)参照）

・保有契約数が対前年同期比で8.7%増加。
・新規契約数累計が対前年同期比で5.4%増加。
・継続契約数の増加と加齢に伴う保険料単価の上昇（料率改定含む）も一部寄与。

② 資産運用収益

・主に国内株式投信・国内REITにより運用収益を確保。

③ その他経常収益

・病院運営を含む保険以外のその他経常収益も順調に拡大。

④ 正味支払保険金

・保有契約の増加に伴い保険金支払も増加。

⑤ 諸手数料及び集金費

・主に代理店に対する手数料。保険引受収益の増加に比例して増加。

⑥ 支払備金繰入額

・将来の保険金支払に備えるための繰入額。
・支払備金（B/S）期末残高－期首残高で算出。
・④正味支払保険金と合算することで、発生保険金となる。

⑦ 未経過保険料繰入額

・収入保険料のうち翌期以降に対応する保険料の繰り延べ。
・繰入額は期末残高－期首残高で算出される。なお、その期における保険引受収益のおおよそ35%-40%前後が期末残高となる。
・保険引受収益から未経過保険料繰入額を差し引くと既経過保険料（≒発生ベースの保険料）となる。

⑧ 異常危険準備金

・制度化された積立であり、収入保険料の3.2%を毎期計上。
・一方、当期首残高を限度額として「正味損害率が50%となる水準」まで取崩すこととなり、繰入額はそのNet金額が計上される。
・通期では、おおよそ「増収分×3.2%」が繰入額として計上される。

⑨コンバインド・レシオ（既経過保険料ベース）

・アニコム損保単体では対前年同期比で低下。今期計画に沿って改善傾向。

Anicom Holdings, Inc. All Rights Reserved

３．連結貸借対照表　サマリー

（百万円）

	18年３月期	19年３月期 3Q	増減率
資産合計	31,164	**39,503**	26.8 %
現金及び預貯金	19,078	**27,310**	43.2 %
有価証券	4,625	**4,707**	1.8 %
有形固定資産	1,359	**1,399**	3.0 %
無形固定資産	1,462	**1,463**	0.1 %
その他資産	4,104	**4,070**	△ 0.8 %
繰延税金資産	623	**626**	0.6 %
貸倒引当金	△ 88	**△ 75**	- %
負債合計	17,576	**18,581**	5.7 %
保険契約準備金	14,508	**15,199**	4.8 %
うち支払備金	1,952	**2,183**	11.9 %
うち責任準備金	12,556	**13,016**	3.7 %
その他負債	2,845	**3,227**	13.4 %
賞与引当金	173	**100**	△ 42.1 %
価格変動準備金	48	**53**	10.6 %
純資産合計	13,587	**20,921**	54.0 %
株主資本	13,546	**21,075**	55.6 %
うち資本金	4,443	**7,530**	69.5 %
うち資本剰余金	4,333	**7,420**	71.2 %
うち利益剰余金	4,770	**6,125**	28.4 %
うち自己株式	△ 0	**△ 0**	- %
評価・換算差額等	△ 128	**△ 317**	- %
新株予約権	169	**163**	△ 3.7 %
負債・純資産合計	31,164	**39,503**	26.8 %

主な勘定科目の内容と増減理由

① 現金及び預貯金

・ 収入保険料の増加・新株予約権の行使による株式の発行（資金調達）等により増加。

② 有価証券

・ 主に国内株式投信・国内REIT等にて運用。

③ 支払備金

・ 将来の保険金支払に備えて計上される未払金。
すでに請求を受けている①普通支払備金と、保険事故は発生しているものの未だ請求を受けていない②IBNR備金を計上。

・ 基本的に保有契約の増加に伴い保険金請求も増加するため増加傾向。

④ 責任準備金

・ 未経過保険料である①普通責任準備金（12,204百万円）と、異常災害に備えて引き当てる②異常危険準備金（812百万円）を計上。

・ 普通責任準備金は保有契約の増加に伴い増加する傾向であり、当該期における正味収入保険料のおおよそ35%～40%前後が残高として計上される傾向。

⑤ 資本金、資本剰余金

・ 新株予約権の行使による株式の発行（資金調達）等により増加。

Anicom Holdings, Inc. All Rights Reserved

４. 連結キャッシュ・フロー　サマリー

（百万円）

	18年３月期 3Q	**19年３月期 3Q**
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,210	**3,038**
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 191	**△ 666**
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 56	**5,861**
現金及び現金同等物の増減額	1,962	**8,232**
現金及び現金同等物の期首残高	13,492	**17,128**
現金及び現金同等物の期末残高	15,454	**25,360**

・保有契約の順調な増加により、安定した営業キャッシュ・フローを計上。
・運用資産への投資を進める一方で売却による回収も実行し、投資キャッシュ・フローをコントロール。
・財務キャッシュ・フローは新株予約権の行使による株式の発行（資金調達）等による収入。

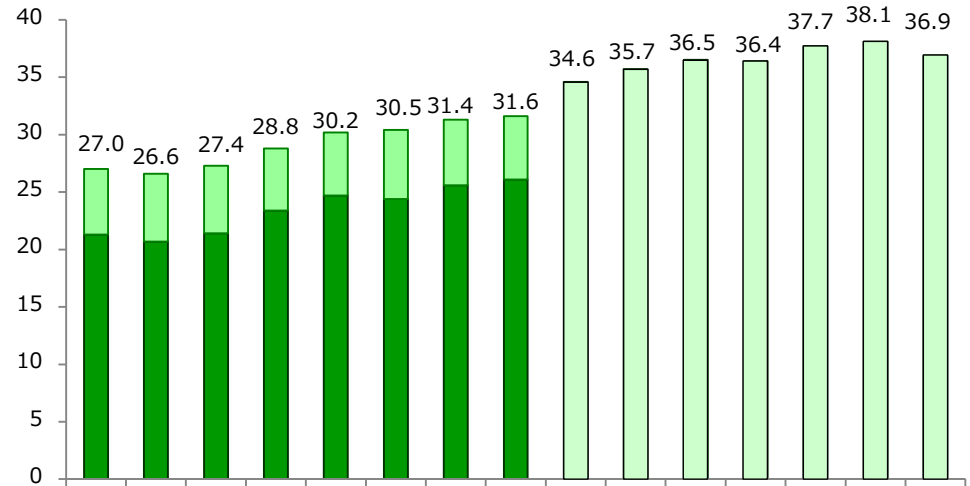
Anicom Holdings, Inc. All Rights Reserved

５．アニコム損保単体：経常収益のパラメータ

（ペット保険新規契約獲得数／保有契約数の推移）

■ 新規契約獲得数の四半期推移

新規契約獲得は堅調に推移

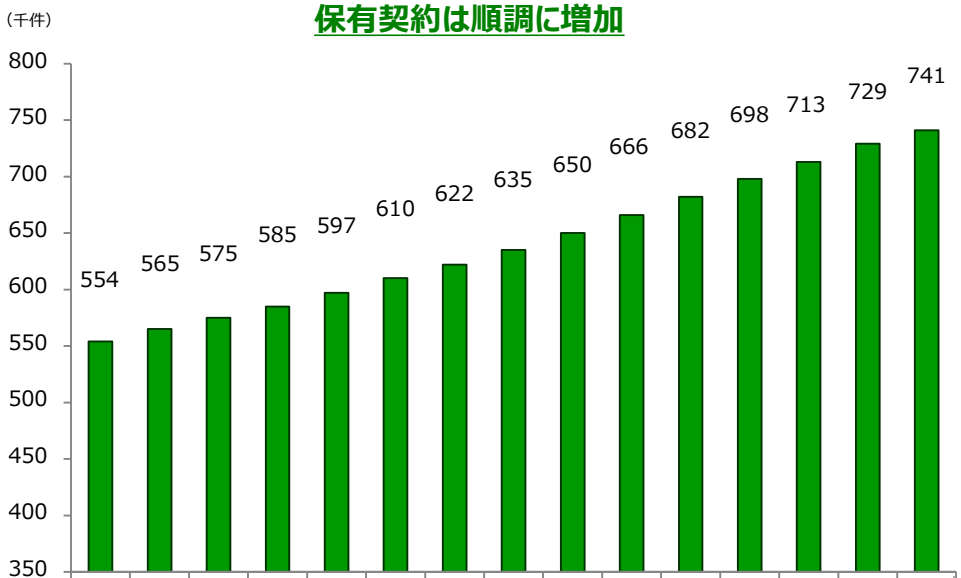


	16年３月期 1Q	2Q	3Q	4Q	17年３月期 1Q	2Q	3Q	4Q	18年３月期 1Q	2Q	3Q	4Q	19年３月期 1Q	2Q	3Q
一般	5.7	5.9	5.9	5.4	5.5	6	5.7	5.5	–	–	–	–	–	–	–
NB	21.3	20.7	21.4	23.4	24.7	24.4	25.6	26.1	–	–	–	–	–	–	–
合計	27.0	26.6	27.4	28.8	30.2	30.5	31.4	31.6	34.6	35.7	36.5	36.4	37.7	38.1	36.9

※ NB：ペットショップチャネル

■ 保有契約数の四半期推移

保有契約は順調に増加



	16年3月期 1Q	2Q	3Q	4Q	17年3月期 1Q	2Q	3Q	4Q	18年3月期 1Q	2Q	3Q	4Q	19年3月期 1Q	2Q	3Q
保有	554	565	575	585	597	610	622	635	650	666	682	698	713	729	741

・**新規契約獲得は堅調に推移**。

12月度単月はＮＢチャネルのペット販売減少等の影響もあり前年割れ。一般チャネルも順調に拡大しており、ＷＥＢ広告等を使いながら施策を継続。

・**既契約の継続率は、88%前後で堅調に推移**（12月度単月は商品改定・保険料改定の一時的影響もあり若干低下しているが、引き続き注視）。

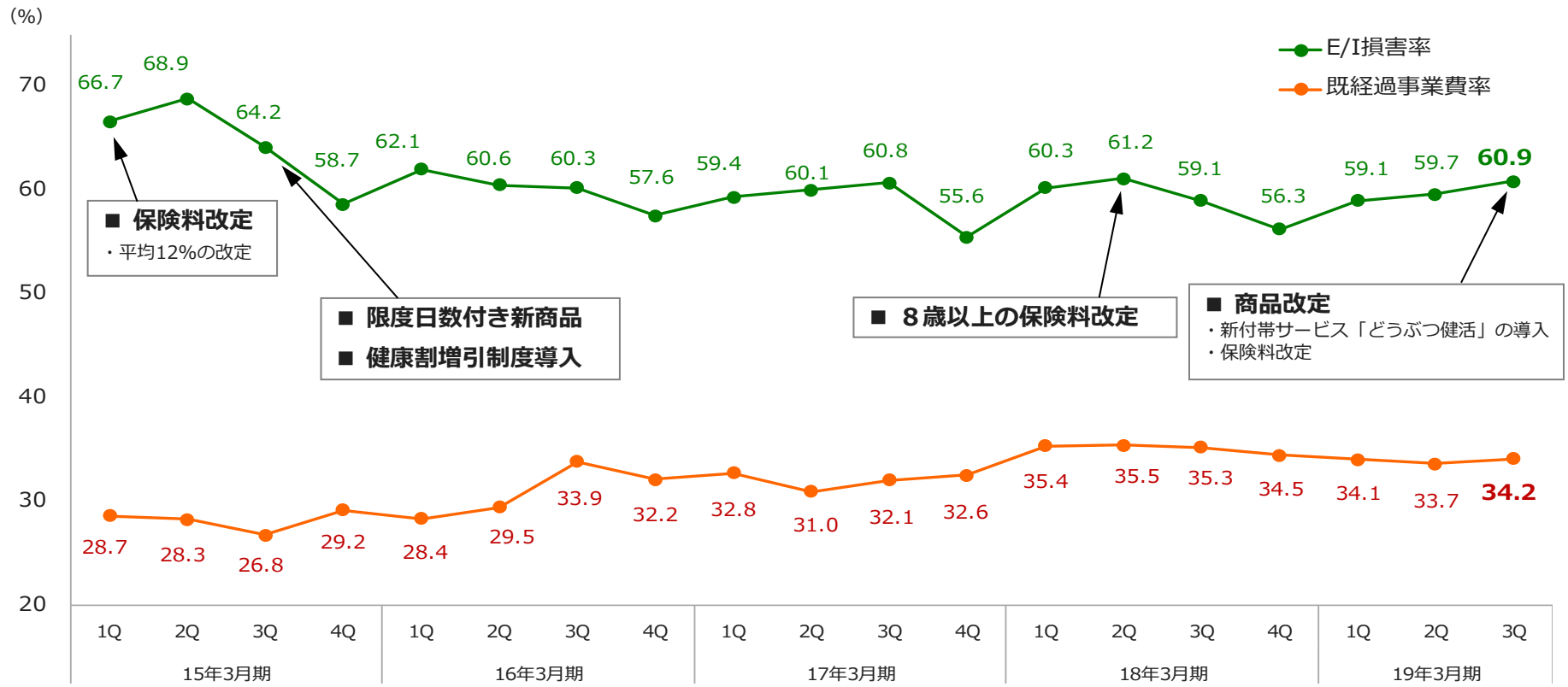
・こうした状況下で、**保有契約数は順調に増加**。

・50%プランと70%プランの比率は、保有契約全体ではおおよそ60：40で50%プラン割合が多い。一方、新規契約では70%プランが５割超。

Anicom Holdings, Inc. All Rights Reserved

６．アニコム損保単体：経常費用のパラメータ　（損害率（E/I）、既経過保険料ベース事業費率）

注1）　下表は、四半期毎の平均値を記載しておりますので、当期累計平均とは異なります。
注2）　事業費率は「既経過保険料ベース事業費率」（損保事業費÷既経過保険料）を表しております。



・**E/I損害率は**、動物病院の繁忙期に応じて1Q・2Qに上昇した後、3Qから4Qにかけて通院頻度が減少することで改善していくといった季節性を有する。ただし、当期３Qは、商品ポートフォリオの改善は順調に進んだものの、天候の影響等もあり、**例年とは多少違う傾向**。

・**事業費率は**、引き続き、規模拡大に向けた投資を行っているなか、費用支出の管理等により、**対前年同期比で改善**。

・安定した利益計上と新規投資のバランスを図るため、両者を合算した**コンバインド・レシオを中期的には90%程度でコントロールする方針**。

Anicom Holdings, Inc. All Rights Reserved

７．中期経営計画 2018年度重点施策の進捗状況

１．売上の拡大

重点施策	直近の進捗状況
(1) 一般契約の大規模な獲得（効果的なWEB戦略）	■LINEから保険加入できる業界初のサービスを開始 ■三井住友銀行で、ペット保険販売を開始 ■株式会社西武ペットケアとの業務提携に合意 ■予防型保険を目指した健診サービス付帯の新商品を発表 ■継続率は安定的に推移 **⇒ 保有契約件数は着実に拡大基調**
(2) ペットショップチャネルの更なる拡大	
(3) ブリーダー・譲渡会等チャネルの新規開拓	
(4) 無事故・NB2年目の継続率の向上	
(5) 新商品の開発	

２．費用の改善

重点施策	直近の進捗状況
(1) 保険金の適正化（誤請求・不正請求の防止を徹底）	■各種予防施策を継続実施中（外耳炎、骨折対策等） ■「どうぶつ診療費.com」運用開始 **⇒ 損害率は前年から改善基調**
(2) ペットの生活習慣に関する予防の取組みを拡充	

３．新規事業への投資・予防戦略の全体像

川上 ▶ 川中 ▶ 川下

	重点施策		直近の進捗状況
（1）	遺伝子検査事業を本格化（支援事業化）	川上	**■遺伝子検査事業を実施中、ペットショップ販売時にも拡大予定** **■次世代シーケンサーIon GeneStudio™ S5 Prime Systemの導入** ■「集団ゲノム解析によるイヌ、ネコの近交度と遺伝構造」学会発表 ■交配や出産に係る研究を継続、ブリーダー向け医療サポートを実施中
（2）	腸内フローラ測定等の販売を拡大	川中	■腸内フローラ測定・健診受診勧奨サービスの保険付帯を開始（12月～） **■定量可能な糞便採取キットの開発、特許出願**
（3）	予防医療の推進	川中	■予防に特化した病院の運営・予防施策を継続実施中
（4）	カルテ管理システム事業の拡大・機能追加	川中	■EPARK事業との協業。「対応動物病院検索サイト」での予約連携開始
（5）	細胞治療・再生医療の実用化・拡大	川下	■イヌの難治性疾患（乾性角結膜炎・慢性腸症）を対象とした細胞診療を開始
（6）	動物病院事業の海外展開スタート	ー	■上海で動物病院をOPEN
（7）	その他	ー	■ペット向け商品の評価サービス「獣医のイチオシ」提供開始　**■ねこと暮らすリノベーションマンション監修** **■「アニコム家庭どうぶつ白書2018」発刊**

Anicom Holdings, Inc. All Rights Reserved

８．周辺新規事業の収益機会とペット保険のシナジー相関

どうぶつの生涯	遺伝子	交配・出産	ペットショップ	健康診断	日々の暮らし	一次診療（一般医療）	二次診療（先進医療）	お別れ
新規事業の収益機会	▼遺伝子検査事業	▼マッチングサイト ▼ブリーディング支援 ▼精子バンク	▼遺伝子情報証明書の発行	▼腸内フローラ測定 事業 ▼保険新サービス付帯	▼フード開発と販売 ▼他企業との提携	▼電子カルテ拡販 ▼一次病院運営（海外含） ▼予約送客事業	▼再生医療提供 ▼二次病院運営	▼ペット霊園紹介 ▼終生飼養施設

保険事業への寄与

▼川上での寄与
- 遺伝子ベースの保険料設計や引受診断
- 新生児チャネルを拡大
- 遺伝病減少にともなう損害率低下

▼川中での寄与
- 保険の付加価値を向上
- 生活習慣病予防による損害率低下
- 企業集団の獲得

▼川下での寄与
- 重症化予防による損害率低下
- 難病治療の確立に伴う損害率低下
- 高齢者等の飼育に対して裾野を拡大

どうぶつデータベースの構築

▶ 新規事業・保険事業での、さらなる活用

Anicom Holdings, Inc. All Rights Reserved

APPENDIX

1．主要経営パラメータ

2．今期資金調達の背景・目的・使途

Anicom Holdings, Inc. All Rights Reserved

1．主要経営パラメータ

	① 18年３月期 3Q	② 18年３月期末	③ 19年３月期 3Q	③－① 前年同期比		③－② 対前期末		19年３月期末 （５月９日予想）
				件数	率	件数	率	
① 保有契約数	682,513 件	698,566 件	741,641 件	59,128 件	8.7 %	43,075 件	6.2 %	776,080 件
② 新規契約数	106,954 件	143,365 件	112,753 件	5,799 件	5.4 %	-	-	166,000 件
③ 継続率	88.2 %	88.2 %	87.9 %	-	-	-	-	88.2 %
④ 保険金支払件数	2,278 千件	3,006 千件	2,423 千件	92 千件	6.3 %	-	-	3,218 千件
⑤ 対応動物病院数	6,178 病院	6,265 病院	6,378 病院	200 病院	3.2 %	88 病院	1.4 %	6,400 病院

	１８年３月期 3Q	１９年３月期 3Q	対前年同期増減	19年３月期 （５月９日予想）
⑥ E/I 損害率	60.2 %	59.9 %	0.3 Pt 改善	59.0 %
⑦ 既経過保険料ベース事業費率	35.4 %	34.0 %	1.4 Pt 改善	34.5 %
⑧ コンバインド・レシオ （既経過保険料ベース）	95.6 %	93.9 %	1.7 Pt 改善	93.5 %

	18年３月期末	19年３月期 3Q	対前期末増減	19年３月期 （５月９日予想）
⑨ 単体ソルベンシー･マージン比率	305.6 %	370.3 %	64.7 pt	315.0 %前後

Anicom Holdings, Inc. All Rights Reserved

2．今期資金調達の背景・目的・使途

保険事業のシェア拡大と財務/システム基盤強化、新規事業の構築・収益拡大の両立

第6回新株予約権の概要

- 発行株数：200万株
- 発行決議日／割当日：2018年8月15日／2018年9月3日
- 本スキームのポイント：
  発行株式数が固定、行使価額は行使請求の直前取引日終値の92%に修正、株価・行使状況を見て行使の停止・再開が可能
- 行使完了日：2019年1月9日
- 最終調達額：66.6億円

中期経営計画達成に向けた資金調達の目的

- 当社創業からの思いである「予防型保険会社」の実現に向け、保険事業の拡大・磐石な基盤確立に加え、ペット産業に関連するインフラビジネスの構築・収益拡大が急務と認識
- 新規事業を積極的に展開し、保険事業とのシナジーを効かせながら、どうぶつ業界の川上から川下までを発展的に繋ぐインフラプレーヤーとしての地位を確立
- 保険事業で獲得したキャッシュを新規事業に活用したいが、保険業には厳しい資本規制が存在するため、安定的な財務基盤の構築が重要
- 単体ソルベンシーマージン比率は、現状300%を超えており、健全性の基準（200%）は十分に満たすものの、損保業界全体で見ると最低水準
- ペット保険のリスクは限定的と考えられるが、財務基盤の強化を前提として新規事業へ投資すべきと判断

資金調達の主旨と方法についての考え方

- ペット保険事業を拡大しながら、新規事業を早期に軌道に乗せ、企業価値向上によって株主還元を実現
- 希薄化を段階的にすることで、極力株価に影響を与えないスキームを検討・選択

具体的な用途	用途の内訳
①財務基盤を柔軟かつ強固に構築しながら、ペット保険事業におけるシェアを持続的に拡大するための投資資金 合計 3,000 百万円 アニコム損保へ増資実施済（2018.10.19）	・ペットショップチャネルに加え、WEBチャネルをはじめとした一般チャネルの強化（営業拠点の拡充・代理店支援強化・戦略的なマーケティングを実施・継続するための広告宣伝費等） ・ペット保険事業単体の柔軟かつ強固な財務基盤を確保
②ペット保険事業を盤石とするためのシステム等への投資資金 合計1,500 百万円	・基幹システム増強、サイバーセキュリティ対策 ・顧客とペットショップ・ブリーダーを繋ぐWEB上のプラットフォーム構築 ・予約、送客を含む動物病院システム・情報集約システムの強化
③ペットのインフラビジネスの構築及び収益拡大に向けた費用 合計 2,160 百万円	・遺伝子解析、遺伝病撲滅に向けたブリーディング支援 ・発症予防に向けたフード・生活環境等の提供による生活習慣コンサルティング等の事業化 ・細胞治療・再生医療等の研究開発・実用化 ・ペット関連企業のM&A・資本業務提携の検討

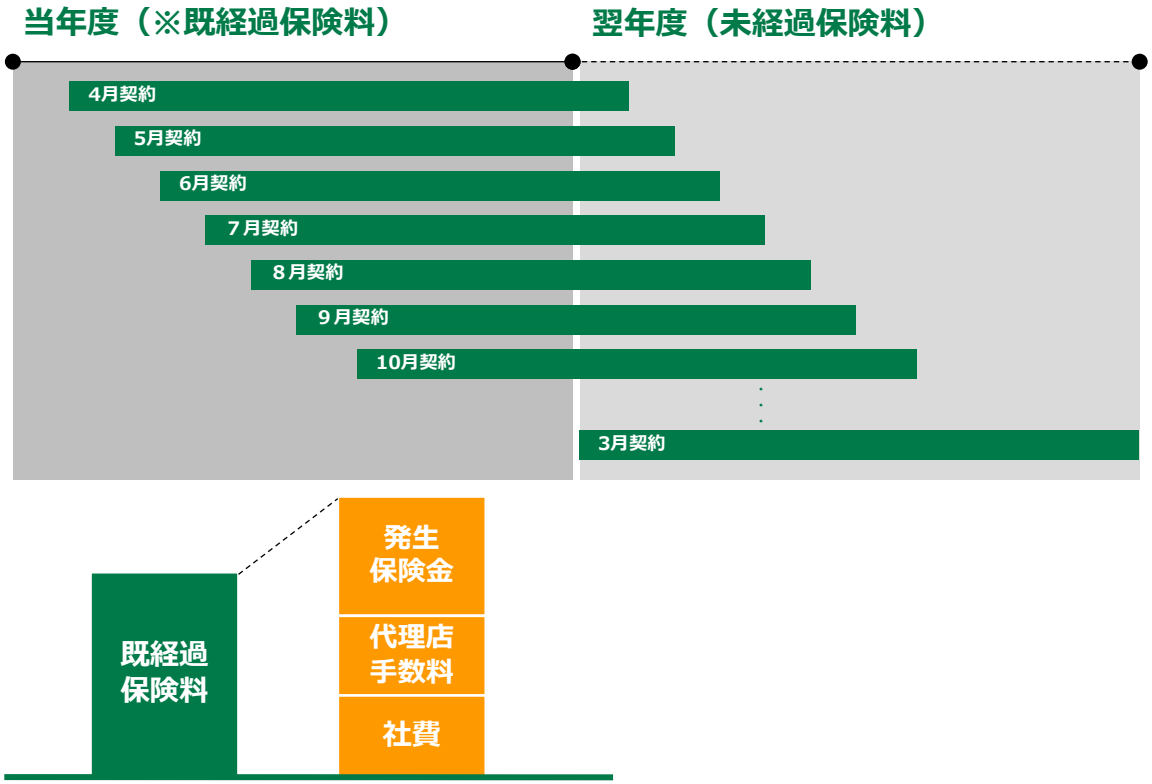
Anicom Holdings, Inc. All Rights Reserved

（参考）保険会計が経常損益に与える影響①

１．保険料の増加が経常損益に与える影響（日本の損保会計ベース）

・一般的に、保険料の増加は経常収益の増加に寄与しますが、事業年度における保険料の未経過期間部分については、普通責任準備金（未経過保険料）として次年度に繰り越すことが法令により定められています。一方で、発生保険金、代理店手数料、社費等の費用については、保険料の増加に対応する費用を含め、これらの費用が発生する年度において計上することとされています。

・したがって、保険料の増加に伴い増収となる場合であっても、当該費用が既経過保険料を超過する場合は、当該年度の経常損益にマイナスの影響を与えることとなります。



Anicom Holdings, Inc. All Rights Reserved

（参考）保険会計が経常損益に与える影響②

2．異常危険準備金が経常損益に与える影響（日本の損保会計ベース）

・異常危険準備金は、巨大災害等が生じた場合の保険金の支払いに備えるために法令により積み立てておくこととされているものであり、各保険会社が毎期積み立てを行っているものです。

・異常危険準備金は、**正味損害率（※）が50%を超えると取崩し（費用のマイナス）が行われます。**
（※）正味支払保険金を正味収入保険料で除した割合です。

3．修正利益について

・当社における「修正利益」とは、経常利益から異常危険準備金、資産運用収支、その他経常収支等の影響を除外した利益としており、“ペット保険事業の実質的な損益”を表す当社グループ独自の指標です。なお、計算式は、以下のとおりです 。

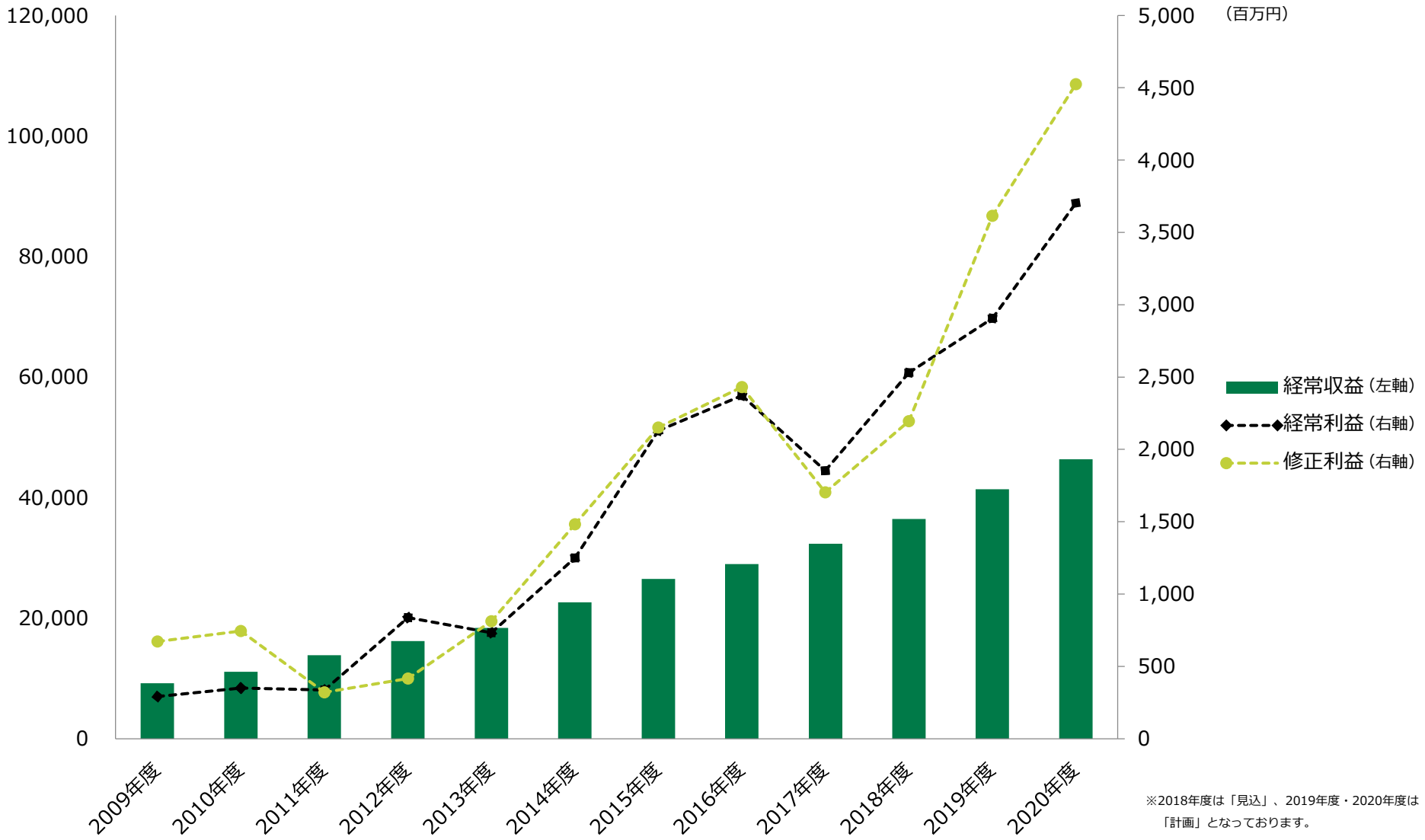
・上記の異常危険準備金等（※）の影響を受けない「修正利益」の方が、“ペット保険事業の実質的な損益”を表すものとして重要な指標であると考えています。異常危険準備金等の要素を除くと、「修正利益」は、経常利益が減少した場合でも増加することがあります。
（※）当該影響等には、上記１．の未経過保険料の影響は含まれていません。

当社の「修正利益」の算出方法

修正利益 ＝ 経常利益 ± 異常危険準備金影響額 ± 資産運用収支 ± その他経常収支 ＋ 保険引受以外の営業費・一般管理費

Anicom Holdings, Inc. All Rights Reserved

（参考）経常収益・経常利益・修正利益の推移



※2018年度は「見込」、2019年度・2020年度は「計画」となっております。

Anicom Holdings, Inc. All Rights Reserved

お問合せ先

アニコム ホールディングス株式会社　経営企画部（IR事務局）

東京都新宿区西新宿８-17-１　住友不動産新宿グランドタワー39階

URL：http://www.anicom.co.jp/

【本資料に関する注意事項】

本資料は、現在当社が入手している情報に基づいて、当社が本資料の作成時点において行った予測等を基に記載しております。
これらの記述は将来の業績を保証するものではなく、一定のリスクや不確実性を内包しております。
従いまして、将来の実績が本資料に記載された見通しや予測と大きく異なる可能性がある点をご承知おきください。
なお、本資料は情報提供のみを目的としたものであり当社が発行する有価証券への投資の勧誘・募集を目的としたものではございません。

Anicom Holdings, Inc. All Rights Reserved